



災害レジリエンス構築のための科学・技術国際フォーラム 2017 Global Forum on Science and Technology for Disaster Resilience 2017

日時 2017年11月23日(木)～11月25日(土)

会場 日本学術会議(SCJ)講堂他

主催 日本学術会議(SCJ)、国連国際防災戦略事務局(UNISDR)、国際科学会議(ICSU)、
災害リスク統合研究(IRDR)、国立研究開発法人土木研究所(PWRI)、
国立研究開発法人防災科学技術研究所(NIED)

開催趣旨

近年、激しい暴風雨や洪水、長期にわたる旱魃と渇水、巨大な地震や津波、突発的な火山噴火が数多く発生し、急激な人口増加や土地利用・土地被覆の変化、構造設計が欠如した住居等、人間活動に起因する脆弱性と相俟って、先進国ならびに開発途上国の双方で被害が増大している。特に開発途上国では、災害を契機に持続可能な開発が挫折し、被災と貧困の悪循環に陥っている場合もある。一方、原子力発電所事故のように、文明の進化による未曾有の技術災害が発生するとともに、国際的分業が進むことで、災害の影響がサプライチェーンを通して即座に越境し、広い範囲に連鎖する傾向がある。また、女性、子供や脆弱な環境におかれた人々への影響も考慮しなければならない。このような災害リスクの社会における認識は不十分であり、科学・技術が取り組むべき課題が山積している。

2015年3月に開催された第3回国連防災世界会議で合意された「仙台防災枠組」では、①死亡者数、②被災者数、③経済的損失、④重要インフラの損害、⑤防災戦略を取り入れた国の数、⑥国際協力、⑦早期警戒及び災害リスク情報へのアクセスを国際目標(global targets)として設定し、この具体化を図るための指標が2017年2月の国連総会で決定されている。なお、「仙台防災枠組」では、全国的防災組織の強化が謳われ、行動のための4つの優先事項として、「災害リスクの理解」、「災害リスク管理のための災害リスクガバナンス」、「強靱化に向けた防災への投資」、「効果的な応急対応に向けた準備の強化と『より良い復興(Build Back Better)』」が定められている。また、2015年には「仙台防災枠組」に加えて、「持続可能な開発目標(SDGs)」及び「気候

変動に関するパリ協定（パリ協定）」が合意されている。国際社会に横たわる格差を超えた人類生存のための諸課題と気候変動の影響、災害の激甚化・グローバル化に鑑みれば、科学・技術分野が国際社会と連携して、取るべき緊急な行動を示すべきである。

国連災害軽減統合戦略(UNISDR)は2016年1月にジュネーブにて科学技術会議を開催し、防災・減災のための科学・技術ロードマップを作成し、国際協力を推進するための科学・技術パートナーシップを構築した。一方日本学術会議（SCJ）では、第3回国連防災世界会議への科学・技術コミュニティからの意見集約の場として防災・減災に関する国際研究のための東京会議を2015年1月に開催し、「東京宣言」、「東京行動指針」として国際社会に発出した。また2016年2月には、提言「防災・減災に関する国際研究の推進と災害リスクの軽減」を発出し、2016年5月のG7サミットへ向けてGサイエンス共同声明「持続可能な発展を支える災害レジリエンスの強化」の取り纏めを行った。

以上を踏まえて、防災・減災に関わる科学・技術の諸分野が一体となって政治家・行政官・民間企業・市民団体等の関係当事者（ステークホルダー）と協力して、仙台防災枠組の4つの優先行動の確実な実施に向けた行動を議論することが必要と考え、「災害レジリエンス構築のための科学・技術国際フォーラム2017」を開催することとした。

開催目的

本フォーラムでは、防災・減災に関わる科学・技術の諸分野が一体となって政治家・行政官・民間企業・市民団体等の関係当事者（ステークホルダー）と協力して、仙台防災枠組の4つの優先行動の確実な実施に向けて、

- 1) 科学・技術諸分野と社会との連携による全国的防災組織（ナショナルプラットフォーム）の強化
- 2) 災害リスクの理解と影響評価、および災害リスク軽減に資する科学・技術の現状と将来像に関する統合的知見の取り纏め（シンセシス）

の必要性と意義を協議し、1)の指針(ガイドライン)と2)の報告書を取り纏めるための実施計画案を策定することを目的とする。

想定される参加者

- 200～300名
（各国の政府機関・大学・学協会・災害研究の拠点組織・地域コミュニティ、UNISDR・UNDP・UNESCO・WMO・WHO・OECD等の国連機関、IRDR・IUGG・Future Earth等の国際科学・技術コミュニティ、国連大学等の国際高等教育機関、地球観測機関、開発援助機関、民間企業等の代表）

実施内容（詳細なプログラムは別紙）

- ・ 全体討議（プレナリー）：
 - 国際的指導者による全体協議（ハイレベルパネル）

- 4つの優先行動における科学・技術の役割の全体協議（優先行動パネル）
- 全国的防災組織強化の全体協議（全国的防災組織パネル）
- 優先行動のシンセシスの全体協議（シンセシスパネル）
- 東京宣言 2017 採択
- ・ **分科会討議：**
各優先行動分科会を設け、科学・技術分野と各関係当事者との熟議により、全国的防災組織の強化指針とシンセシス報告書の作成計画を取りまとめる。
 - ジュネーブ会議でまとめられたロードマップの進捗協議
 - 優良事例の紹介と課題の整理
 - 全国的防災組織への科学・技術の貢献の指針の作成計画
 - 災害リスク軽減の統合的な理解の報告書の作成計画

期待される成果

- 東京宣言 2017 (現状認識、目指すべき方向性、具体的活動)
- 全国的防災組織の体制構築とより良い発展を支援する科学・技術のあり方に関する指針の作成計画
- 分野間連携・社会と科学の連携に基づく災害リスク軽減のシンセシス報告書の作成計画
- 民間企業－研究コミュニティの協働計画
- 会議報告論文（特別号：全体、各分科会報告、指針作成計画、シンセシス作成計画、民間企業－研究コミュニティの協働計画）

(別紙)

プログラム

1日目 (2017年11月23日、木曜日)

8:30- 受付開始

9:30-10:30 開会式

式辞

- 山極 壽一/日本学術会議 (SCJ) 会長
- 国連事務総長特別代表代理
- シュアイブ・ルワサ/災害リスク統合研究 (IRDR) 科学委員会議長

基調講演

- ゴードン・マックビーン/国際科学会議(ICSU) 会長

東京宣言 2017 提案

- 起草担当

(休憩 10:30-10:40)

10:40-12:00 第1 優先行動に関するパネルディスカッション

モデレーター:

SCJ: 佐竹健治/東京大学 地震研究所 教授

ICSU/IRDR:

UNISDR:

パネリスト: 6-8名、討論者: 2-3名

12:00-13:30 ワーキングランチ:

ポスター+ショートパネル(12:30-13:00)セッション

産学協力「インキュベーションレベル」

モデレーター:

西口尚宏/JIN 代表

13:30-14:50 第2 優先行動に関するパネルディスカッション

モデレーター:

塚原健一/九州大学 大学院工学研究院 教授

ICSU/IRDR:

UNISDR:

パネリスト: 6-8名、討論者: 2-3名

(休憩 14:50-15:00)

15:00-16:20 第3 優先行動に関するパネルディスカッション

モデレーター:

川崎昭如 / 東京大学大学院 准教授

ICSU/IRDR:

UNISDR:

パネリスト：6-8名、討論者：2-3名

(休憩 16:20-16:30)

16:30-17:50 第4優先行動に関するパネルディスカッション

モデレーター：

田村圭子/新潟大学大学院 教授

ICSU/IRDR:

UNISDR:

パネリスト：6-8名、討論者：2-3名

2日目 (2017年11月24日、金曜日)

8:30- 受付開始

9:00-10:20 第1回ワーキンググループセッション (4会場：議論導入)

(休憩 10:20-10:40)

10:40-12:00 分野間連携に関するパネルディスカッション

モデレーター：

寶馨/京都大学大学院 教授

ICSU/IRDR:

UNISDR:

パネリスト：6-8名、討論者：2-3名

12:00-13:00 ワーキングランチ：ポスターセッション

「ナショナルプラットフォーム」

13:00-14:50 ナショナルプラットフォームに関するパネルディスカッション

モデレーター：

西川智/日本地域開発センター 理事

ICSU/IRDR:

UNISDR:

パネリスト：6-8名、討論者：2-3名

(休憩 14:50-15:00)

15:00-16:20 シンセシスに関するパネルディスカッション

モデレーター：

林春男/防災科学研究所 理事長

ICSU/IRDR:

UNISDR:

パネリスト：6-8名、討論者：2-3名

(休憩 16:20-16:40)

16:40-18:00 第2回ワーキンググループセッション (4会場:議論展開)

3日目 (2017年11月25日、土曜日)

8:30- 受付開始

9:00-10:20 第3回ワーキンググループセッション (4会場:議論集約)

(休憩 10:20-10:40)

10:20-12:00 総括セッション

- ワーキンググループ報告 (8min@4)
- パネル報告 (8min@3)
- 産学協力報告 (8min@1)
- IAP 声明紹介(15min)
- 東京宣言 2017 審議

12:00-13:30 ワーキングランチ:

ポスター+ショートパネル(12:30-13:00)セッション

産学協力「実行・成果共有レベル」

モデレーター:

ラジブ・ショウ/慶應大学 教授

13:30-15:30 ハイレベルパネル会議

モデレーター:

大西 隆 / 日本学術会議 (SCJ) 前会長

パネリスト:

韓昇洙/災害リスク軽減と水の国連事務総長特使

ロバート・グラッサー/国連事務総長特別代表

ゴードン・マックビーン/国際科学会議(ICSU) 会長

シュアイブ・ルワサ/災害リスク統合研究 (IRDR) 科学委員会議長

フラビア・シーゲル/国連教育科学文化機関 (UNESCO) 科学技術担当副局長

/ 世界気象機関 (WMO) 代表

/ 世界保健機構(WHO) 代表

ロルフ・アルター/経済協力開発機構 (OECD)

/ 地球観測に関する政府間部会(GEO)代表

/ 世界銀行 代表

/ アジア開発銀行代表

/ 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 代表

15:30-16:00 閉会式

- 東京宣言 2017 採択
- 閉会挨拶

- 集合写真撮影

16:30-18:00 レセプション(国立新美術館)